

# ふくおかの経済

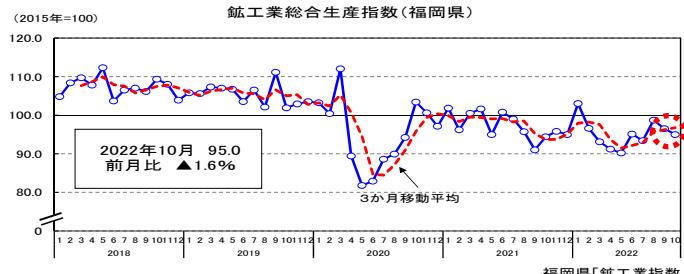
令和4年12月号



## 生産

持ち直しの動きがみられる。

10月の生産指数は、輸送機械工業などの低下により2か月連続で前月を下回りましたが、3か月移動平均では前月を上回りました。

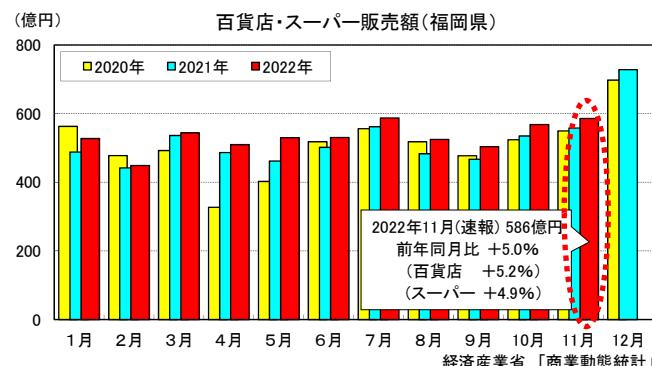


鉱工業生産指数は、2015年の生産水準を100として、その変化を表しています。

## 消費

緩やかに持ち直している。

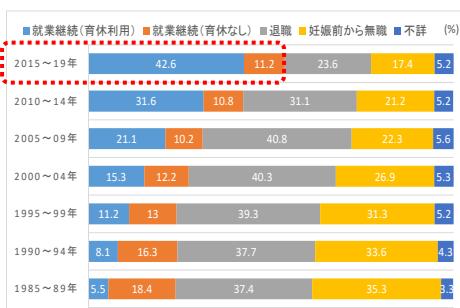
11月の百貨店・スーパー販売額は、14か月連続で前年同月を上回りました。



## 今月のトピック 女性の自己啓発の実施促進に向けて

- 出産・育児に関して休業制度等の整備が進んだことで、女性の就業状況は大きく変化しています。出産後も同じ職場で継続して就業する割合は、直近で過半数を超みました。(図表1)
- キャリアアップを図る上では、一層の自己啓発が求められますが、その課題として、特に女性は「家事・育児で余裕がない」と感じている人が男性に比べ圧倒的に多い状況です(図表2)。実際、男女別にみた家事・育児にかける時間は、少しずつ差が縮まっているものの、女性の方が圧倒的に長い状況は、過去30年以上変わっていません。(図表3)
- 2022年10月から産後パパ育休(出生時育児休業)が始まるなど、男性が家事・育児に女性と同様に関わり、かつ仕事との両立を図る環境整備が進められています。こうした制度の普及・活用等が、女性の自己啓発の実施促進にも好影響を与えると考えられます。

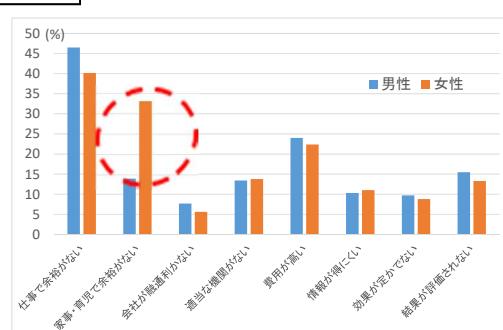
図表1 出産前後の妻の就業変化(第1子)



出所:国立社会保障・人口問題研究所

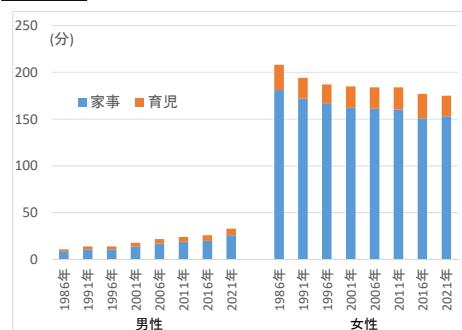
「第16回出生動向基本調査」

図表2 労働者が自己啓発を行う上で感じる課題



出所:厚生労働省「労働経済白書(令和4年版)」

図表3 家事・育児にかける時間(1日当たり)



出所:総務省「社会生活基本調査」